

『葬儀規範』の考え方

「葬送儀礼」は、親しい方の別離（死）という厳しい現実を前に執行される、人類普遍の営みである。あふれ出る「別れの悲しさ」、「いのちの尊さ」、「ありがたさや尊さ」、「さまざまな想いや感情」。その場では、遺族・知友が寄り集まり、在りし日の故人を偲ぶ中に、人生無常のことわりが実感され、生と死に向き合う命のありようがすぐさま問われる。

本宗門の葬送儀礼は、本願寺第八代宗主蓮如上人の葬儀次第に準拠してかたち作られ、伝承されてきた。導師を勤める僧侶は、浄土真宗の葬儀の意義を十分に思慮し、丹誠を凝らして、葬儀を勤めることが求められる。

本『浄土真宗本願寺派 葬儀規範』は、葬儀を執り行う上で基本となる莊嚴、次第、装束が示されており、浄土真宗本願寺派における葬送儀礼の範を示すものである。本書を基本とし、悲しみの中にある遺族・参拝者の心情に寄り添いつつ、現場の状況に合わせ柔軟に創意工夫を凝らした葬送儀礼を執行されたい。

葬場勤行 ③次 第

一	行事鐘〔本堂の場合〕	
二	入場 着座	
三	持念（合掌・礼拝）	
四	磬	二声
五	三奉請または伽陀	
六	磬	作相・導師焼香
七	表白	
八	磬	一声
九	正信念仏偈	
十	磬	一声
十一	短念仏	一遍〔調声〕
十二	磬	一声
十三	短念仏	五遍〔同音〕
十四	磬	一声
十五	念仏	
十六	和讃二首引	〔本願力ニアヒヌレバ…〕（高僧和讃二三） 〔如來淨華ノ聖衆ハ…〕（高僧和讃一四）
十七	回向	〔願以此功德…〕
十八	磬	三声
十九	持念（合掌・礼拝）	
二十	退出	

または、左の次第を用いてもよい

一	行事鐘〔本堂の場合〕	
二	入場 着座	
三	持念（合掌・礼拝）	
四	磬	二声
五	三奉請または伽陀・至心礼・頌讃・頂礼文など（適宜に選択する）	
六	磬	作相・導師焼香
七	表白	
八	磬	一声
九	正信念仏偈または十二礼・願生偈・讃阿弥陀仏偈など（適宜に選択する）	
十	磬	一声
十一	念仏・和讃	
十二	回向	〔願以此功德…〕
十三	磬	三声
十四	持念（合掌・礼拝）	
十五	退出	

詳しくは、『葬儀のてびき』四、葬儀の執行にあたっての「補記」三奉請、経文・偈文、念仏和讃、回向について（42頁）を参照されたい。